

2024年



かわむら小児科

モ〜モ〜くらぶ

公式 LINE



RSウイルス感染症について

全国的に流行し始めているようですが、先月から周南地区でも見られ始めました。

症状は、大人や年長児であれば発熱、鼻水、咳という普通のかぜで終わりますが、2歳未満(特に1歳未満)のお子さんがかかると水様の鼻水に始まり、細気管支(気管支の奥)の炎症を起こし、ぜいぜいがひどくなったり、6ヶ月未満のお子さんだと無呼吸を起こしたりして入院が必要になることもあります。生まれたての赤ちゃんでも感染することがあり、まれに命を落とすぐらい重症になることもあります。乳幼児突然死症候群の原因の一つではないとも言われています。

診断は15分ぐらいで診断できるキットがあります。ただ、1歳未満の乳児、入院が必要な児にしか保険は使えません。3歳以上になれば普通のかぜで終わりますし特効薬はありません(出席停止の病気ではありません)のであえて検査をする必要はないと思っています。

このウイルスに対しては気管支を広げる薬や痰を切れやすくする薬などを使った対症療法しかありません。ステロイド剤を早期に使うと入院しなくてすむ確率が上昇するという報告があり、当院でも1歳未満の子では早めに使ったりしています。

低出生体重児で生まれた子や先天的に肺や心臓に病気がある子は特に症状がひどくなることが多いため、このウイルスの感染を防ぐ注射(商品名“シナジス”ワクチンではなくガンマグロブリンという抗体です)を予防的に打つこともあります。当院でも接種することは可能です。ただし、接種できるのは未熟児で生まれた児、肺や心臓に病気がある子のみです。

.....感染症情報(5月7日現在).....

★RSの他、溶連菌も流行しています

★インフルエンザB型、新型コロナウイルスも少しずつまだ見られます。

旅行中の子どもの体調不良

旅行中に発症する子どもの体調不良として多いのは、発熱、下痢、咳です。

- **発熱**はあらゆる疾患のサインですが、水分摂取ができて、ぐったりしている様子がなければ慌てる必要はありません。経口補水液で脱水を予防しながらしっかり休息をとりましょう。
- **急性下痢**の主な原因は感染性胃腸炎です。下痢をしている子どもは大人より脱水になりやすいので、経口補水液による脱水予防が大切です。
- 突然の**咳**で気道異物の可能性がある場合や、喘鳴や嘔吐を伴う咳を繰り返す場合には早めの受診が必要です。かぜなどに伴う咳嗽に対しては、水分摂取で口腔内の加湿を行います。

旅行に出かけることの多い休日は、時間外対応可能な救急外来を探すことになります。受診すべきか迷った場合には#8000(こども医療電話相談)を利用したり、日本小児科学会ウェブサイト「こどもの救急」(kodomo-qq.jp)などが参考になります。
(ラビー)

もう めげない

作: ヨシタケシンスケ

子育てであるあるの1つ、子どもの服がなかなか脱げない!!

大人も子どももクスッと笑ってしまう絵本。最後は脱ぐことができるかな〜?
(はちみつ)



5月25日(土) 休診

日本保育保健学会出席のため